

奉納記念

薬師寺

水と光の
幻想

〔会場〕 法相宗大本山 薬師寺 国宝 東院堂

〔期間〕 2016年3月3日**木** ↓ 3月31日**木**

〔拝観時間〕 午前8時半～午後5時 薬師寺花会式期間中の3月25日～30日までは午後6時～午後6時半まで特別公開

千住博 (日本画)
武田成功 (ガラス)

「水と光の幻想」展に寄せて

千住博

このたび薬師寺に、藝大受験時代の恩師、故武田成功先生のガラス作品とともに、私の日本画作品も奉納させていただけることになりました。これを記念して、国宝東院堂にて「水と光の幻想」展を開催の運びとなりました。このことは私の生涯の名誉です。

武田成功先生の作品は古代メソポタミア文明に起源を持つ、パート・ド・ヴェール技法により作られたガラス作品です。これが悠久の時を越え、今回、シルクロードの到達地、奈良・薬師寺で発表、収蔵されることに格別の感があります。武田先生の作風は大胆にして緻密、古典的であり同時に革新的で、西洋的であり東洋の趣きもあります。カラフルであると同時に、極北の無常感をも漂わせています。つまり造形の可能性の全てを含み、日本におけるガラス芸術の頂点と言えるものです。

一方私の作品は現代科学により生まれた蛍光塗料により、ブラックライト照明で闇の中青く発光する滝の大型屏風と、プラチナを用いて描いた崖の屏風です。滝の流れは、水の流れであると同時に“時の流れ”のメタファーでもあり、紙を揉んで表情を形成した崖は、自らの傷を直視し、その中に主体的に“美”を見出すポスト3・11の発想法の提案でもあります。

東院堂に鎮座する、時を越え、空間を越え、見えないものを見えるようにしようとする国宝聖観世音菩薩と、武田先生と私の作品の織りなすハーモニーをぜひこの機会にお楽しみ下さい。なお会場の照明は、斯界の第一人者藤本晴美さんが引き受けて下さいました。藤本さんの仕事はまさに天才の領域と言えるもので、展示は今回藤本さんの照明に相当助けられたと感じています。

武田成功 (ガラス工芸作家)

1942年東京都生まれ。1967年東京藝術大学日本画科卒業、サロン・ドプランタン賞受賞。1969年東京藝術大学大学院修士課程修了。日本画家として数々の賞を受賞後、1984年山梨県甲府市にガラス・スタジオを開設、ガラスによる造形作品の創作を始める。古代より伝わるパート・ド・ヴェールという鑄造ガラスの技法をもとに日本画の顔料をガラスに混ぜて創作する独自の作風を構築。1989年以降、東京・日本橋高島屋、銀座和光を中心に、山梨、大阪、京都などでも個展開催。1989年JAPAN ARTS CENTERオープニング企画展出品(アメリカ)。1997年フランチマイヤー美術館にて国際交流基金による日本人のメキシコ移住100周年記念個展(メキシコ)。1998年モンテレーガラス工芸美術館にて個展(メキシコ)。2005年京都醍醐寺霊宝館アーティストスペースにて個展。2010年の逝去まで、精力的な制作の傍ら、長きに渡り後進の指導にあたる。

照明演出 / 藤本晴美 + MGS 照明設計事務所

会場設営 / 東 亨 + HIGASHI - GUMI

千住博 (日本画家)

2007年から2013年まで京都造形芸術大学学長。現在は同大教授。

1958年東京都生まれ。1987年東京藝術大学大学院博士課程修了。修了制作藝大買い上げ。1995年第46回ヴェネツィアビエンナーレ(イタリア)にて名誉賞受賞、東洋人として史上初。2002年第13回MOA岡田茂吉賞大賞受賞。「水墨の香り」展(ソウル国立現代美術館、韓国)。2003年「大徳寺聚光院の襖絵」展(東京国立博物館)。2005年ミラノサローネ(イタリア)。2006年第6回光州ビエンナーレ(韓国)。2010年瀬戸内国際芸術祭に参加。日本国政府の依頼によりAPEC JAPAN 2010の会場構成を担当。東京国際空港新国際線ターミナルのアートディレクション担当。2011年軽井沢千住博美術館開館。第5回成都ビエンナーレ(中国)。2013年オペラ「KAMIKAZE」の舞台美術を担当。2014年オペラ「夕鶴」の舞台美術を担当。震災にあった宮城県女川町の新しい駅舎・公衆浴場の壁画制作(設計:坂茂)。2015年第56回ヴェネツィアビエンナーレ「Frontiers Reimagined」展出品(イタリア)。現在までに世界各地で個展、グループ展多数。日本画、版画、壁画、デザインなどの絵画制作にとどまらず、文筆活動や教育にも携わる。